

0459

府 第五二號



主務局長  
主務課長  
主務課員

昭和二十一年三月十九日  
昭和二十一年三月十九日  
昭和二十一年三月十九日

聯帶局長

聯帶課長

審案筆記者



裁

主務局長



主務課長



主務課員



參事官

總務長官

高級副官



副監督

主務副官



忘

滿受才二七七號  
名篤志者漢婦會員陸海軍陸生勤務補助三突スル付  
廳名日本赤十字社



陸海軍大臣連署印指令按

其社篤志看護婦人會、負陸海軍、衛生勤  
勞補助、関スル件、依テ通

但シ看護婦人派遣ノ期日、病院長、指示ヲ受ケ  
ヘシ派遣中、陸海軍ノ紀律ヲ守リ且其勤勞上、  
既表ノ指揮監督ヲ受ケテ、心得ヘシ

大臣ヨリ海軍大臣一併連署按

日本赤十字社篤志看護婦人會、負陸海軍ノ  
衛生勤勞補助、関スル件、別紙甲號、該社長、  
出所ニ對シテ、通指令可然意見、以テ之  
貴大臣、於テ異存、無クシテ、指令書、捺印、上

該社へ交付相成度此段及照會也

別紙甲第ハ赤十字社長願書乙第ハ指令書ニ  
乙第ト記シル付箋ヲ付ス

送田第三二四號

右海軍大臣ヨリ指令書交付ノ回答アリタル上

次官ヨリ各留守師團<sup>陸衛ヲ</sup>(師團)參謀長及

臺灣總督府陸軍幕僚參謀長(御通牒)案

日本赤十字社救護負ヲ使用スル豫備病院ニ於テ

同社篤志者護婦人會々負ヨリ衛生勤務幫助方

出願ノ者アルトキハ差支ナキ限リ病院<sup>長</sup>於テ許

可セシメラレ度旨同社長ヨリノ出願ニ對シ右認

陸軍省 陸軍部 陸軍省

陸軍 員 在

可ノ上看護婦人ハ陸軍ノ紀律ヲ守リ且其勤務  
上病院長ノ指揮監督ヲ受クヘキ旨指令相成候  
間承知可有之也及通牒候也

追テ篤志看護婦人ノ服務ヲ許可スヘキ時機  
ハ当該病院長ニテ醫務局長ノ指示ヲ受ケ  
ノラルヘキ儀ト承知可有之也

陸軍 員 在 七九一號

三月



滿受第六七七號

臨敷庶第四八號

本社篤志看護婦人會ノ儀ハ

皇族妃殿下御勸奨ノ下ニ正社員以上ノ有志婦人結

合シ戦時軍人傷病者ノ實地看護及慰問等ノ事ニ從

テ本社ノ事業ヲ幫助スルヲ以テ目的ト為シ豫テ看護

法編帶術等絶エテ講習教居候者ニ有之近來其旨

趣旨大ニ普及シテ目下ハ別紙記載ノ如ク支會モ増加

致候處今回ノ戦役ニ關シ陸軍豫備病院若クハ海軍

病院ニ於テ本社救護員ヲ御使用相成候ハ該會員

ノ目的モ貫徹為致度就テハ救護員派遣地方ノ會

員ヲシテ衛生勤務幫助ノ儀當該病院長ハ出願可

致ニ付御差支無之限リ通旨ノ事ニ從ハシラレ候様豫

テ各病院長ハ御訓示置被下度此段相願候也

昭和三十四

明治三十七年二月十五日

日本赤十字社長 伯爵松方正義

陸軍大臣 寺内正毅殿  
海軍大臣 田中元一 山本権六 兼殿

日本赤十字社篤志者前婦人會之員數

本 會	三一二	甘學北支會	一五五
左支會	四六	和歌山支會	四三
徳島支會	一〇〇	廣島支會	一五七
京都支會	三七八	靜岡支會	一二七
山梨支會	五三	山口支會	九四
三重支會	五五	熊本支會	一四〇
神奈川支會	二八四	福井支會	七〇
北海道支會	七八	福島支會	六九
廣川支會	九三	鳥取支會	七四
香媛支會	一八五	千葉支會	一七七
宮城支會	八六	鹿兒島支會	五四
福岡支會	三一	石川支會	二〇六

日本赤十字

若古屋子層

七一 大方子層

三三

新瀉子層

一〇八 佐賀子層

七二

島根子層

七一 岡山子層

三三

姫路子層

八六 青森子層

四三

富山子層

四九 計

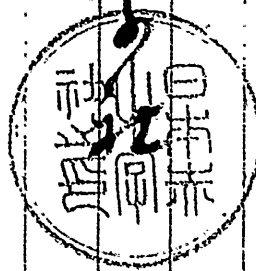
三六三三





日本赤十字社

己利候 救世第 四ハ年ヲ以テ 志  
者 復 婦人 会ニ 係ル 救世 玉皇 会ニ 係ル  
婦人 会ニ 係ル 救世 玉皇 会ニ 係ル  
婦人 会ニ 係ル 救世 玉皇 会ニ 係ル  
婦人 会ニ 係ル 救世 玉皇 会ニ 係ル  
婦人 会ニ 係ル 救世 玉皇 会ニ 係ル



陸中 赤十字 会  
陸中 赤十字 会  
陸中 赤十字 会



官廳第六三八號之三

二月廿二日

日本赤十字社長、出願ニ係ル同社  
 篤志者、看護婦人會、員陸海軍  
 衛生勤務幫助ニ関スル件ニ對シ  
 指令ニ儀ニ付送甲第三二四號照會  
 抄了、承右異存各之、案指令  
 書ニ捺印、上同社ニ交付致、此段  
 及復健美也

所右ニ于千七百二十四年二月二十一日

海軍大臣田中元一  
 陸軍大臣寺内正毅殿

